

令和7年度 若栗小学校アクションプラン - 1 -

重点項目	確かな学力の育成(知)	
重点課題	本に親しもうとする態度の向上	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度は、学年の実態に応じて教師がノートやタブレット端末の活用場面を考え、子供たちが自分の考えを再構築するよさを実感しながら、主体的に学ぼうとする態度を高めた。今年度は、自分の言葉を用いて表現する態度の向上を目指す。そのために活動を工夫し、人間関係の土台となるコミュニケーションを活発にしたい。そのことが、考える力の支えとしてはたらき、自分の考えを表現しながら学び合うことにつながると考える。本に親しむことで、語彙力や思考力、各教科の課題を正確に把握するための読解力、課題解決に向けた情報活用能力等の高まりを目指したい。</li> </ul>	
達成目標	「4 A運動」の「好きな本を増やすことができた」について自己評価し、「できた」と評価した児童が、80%以上になることを目指す。	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年の実態に応じ、読み聞かせや友達と互いに本を紹介する活動等を国語科の学習と関連させて設定することで、コミュニケーションを取りながら本の楽しさに気付く体験を増やす。</li> <li>・本を読む時間を十分に確保するために、休み時間だけでなく、火曜日と木曜日の「もくもくタイム」に2学年ずつで図書室を利用し、本に親しむ時間を増やす。</li> <li>・自分の読書の振り返りと確かめとして、目標冊数を決めて読書の記録ファイルを記入し、学期ごとに目当ての達成度を評価しながら読書の幅を広げていく。</li> </ul>	
達成度	「好きな本を増やすことができた」80%以上達成者の割合【7月～2月までの年間達成率】 1学期 55.2% 2学期 51.6% 3学期 60.4% 年間 55.7%	
具体的な取組状況	<p>「本の楽しさに気付く体験」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子供たちが興味をもって読むと思われる新刊図書を購入し、図書室で「新刊図書ウィーク」を設けて紹介することで、新しい本を楽しみに図書室を利用する子供が増えた。</li> <li>・給食を待つ時間における司書教諭や上級生による読み聞かせ、国語科の学習における本の紹介活動や教師からの紹介等により、普段、自分からは手に取ることがない本に出合うきっかけが生まれた。</li> <li>・読書週間中に親子での読書と呼び掛けしたところ、「親子で楽しむ機会になった」「またやってみてみたい」という感想が多く寄せられた。また、全校児童が書いた「おすすめの本紹介カード」を図書室に展示したことで、関心をもってカードを読み、自分の興味を広げる子供がいた。図書室では、学年の発達段階に応じた推奨図書や、季節や行事に合わせた本を展示し、本を通して知的好奇心を喚起するような対象との出会いの場を設けたことで、意欲的に読書に取り組もうとする子供が増えたと考える。</li> <li>・図書委員会が企画した「図書ビンゴ」に参加しようと、多くの子供たちが図書室を訪れた。本を読んでビンゴを達成したらおみくじを引くという楽しい企画は、子供たちが本に親しむ一助となると共に、図書室を交流の場として活用した。</li> </ul> <p>「自己の読書の歩みが分かる振り返りの場」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読書の記録ファイルの蓄積により、自分の読書活動を振り返り、「読んだことがない本を読んでみよう」「もっと読みたい」と意欲を継続させることができた。また、時々担任がその状況を見取り、指導の改善に生かすようにした。</li> </ul>	
評 価	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・55.7%と全体として目標の80%には達しなかったが、1・2学期よりは3学期の達成者の割合は増えた。1週間を通して見ると清掃時間帯に読書を行う「もくもくタイム」を設定している日には達成者が多いことが分かる。子供たちが家庭や学校で本に親しむ態度を高める方策を考えていきたい。</li> </ul>
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「好きな本を増やすことができた」という評価項目では子供たちが自己評価しにくいと考え、「学校や家庭で本を読んだ」という評価項目にした。しかし、本を読むということは1冊丸々読み終えなければならないと思っている子供もいたようである。学校でも家でも、少しでも本を開く習慣が身に付くとさまざまな表現に出会い、自分の考えを表す一助になると考えるので、子供たちがより一層本に親しむための効果的な指導方法について工夫をしていきたい。</li> </ul>	